

平成28年度

総合戦略事業評価報告書

評価対象：平成27年度地域活性化・地域住民生活等
緊急支援交付金（地方創生先行型）事業

平成28年8月

にかほ市ふるさと創造有識者会議

はじめに

1. ふるさと創造有識者会議について

本市では、平成27年11月に「にかほ市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。

まち・ひと・しごと創生を効果的・効率的に推進していくためには、住民、NPO、関係団体や民間事業者等の参加・協力が重要であることから、総合戦略策定にあたっては、住民をはじめ、産業界・市町村や国の関係行政機関・教育機関・金融機関・労働団体・メディア（産学官金労言）等で構成する推進組織でその方向性や具体案について審議・検討し、広く関係者の意見が反映されるようにすることが重要とされた。

また、その効果検証に際しても、その妥当性・客観性を担保するため、行政の中だけで行うのではなく、このような組織などを活用して、外部有識者の参画を得ることが重要とされていることから、産学官金労言の各分野における有識者及び住民代表からなる「にかほ市ふるさと創造有識者会議」を設置した。

2. 平成28年度にかほ市ふるさと創造有識者会議構成

役 職	氏 名	所 属	分野
議 長	小笠原 正	秋田県立大学 教授	学
副議長	山 田 勝四郎	にかほ市観光協会 会長	産
議 員	佐 藤 作 内	にかほ市商工会 会長	産
〃	新 田 修	にかほ市工業振興会 会長	産
〃	佐々木 鋼 記	秋田しんせい農協 西部営農センター長	産
〃	高 橋 新	由利地域振興局 地域企画課長	官
〃	保 坂 幸 悦	北都銀行 象潟支店長	金
〃	柴 田 禮 子	にかほ市男女共同参画懇話会 会長	労
〃	永 田 佳乃子	フリーアナウンサー	言
〃	菅 原 光 子	住民代表	住民

ふるさと創造有識者会議の審査概要と総評

平成28年度のかほ市ふるさと創造有識者会議（事業評価）は、平成28年6月3日から7月19日まで計3回開かれ、平成27年度地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）事業（以下、地方創生先行型交付金事業という。）として実施された15事業を評価したので、その審査概要を報告するとともに総評を述べる。

にかほ市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間は平成27年度から平成31年度までの5年間である。

総合戦略の策定と並行し、地方創生先行型交付金事業が実施され、これが1年目の総合戦略事業と位置づけられることから、全15事業を評価するものである。

総合戦略の推進にあたってはP D C Aサイクルの運用が求められることから、評価は事業の目標（K P I：重要業績評価指標）の達成に効果があったかどうかについて着目することとし、A（効果がある）、B（やや効果がある）、C（あまり効果がない）、D（効果がない）の4段階で行った。

15件中、A評価が8件、B評価が6件、C評価が1件となった。しかし、A評価の中でも今後の展開への期待を込めたうえでのもの、B評価の中でも改善点を指摘されたものなどがあり、評価に満足することなく、今後も事業の改善を進めてほしい。

10名の議員からは、それぞれの事業に対して多くの意見が出されたが、いずれも事業効果が向上し、にかほ市の地方創生に資するものとなるための意見なので真摯に受け止めてほしい。

多くの事業は、事業設計や事業の実施に、限られた人員や予算の中でより事業効果を向上させるための工夫が見られ、市職員の意識の高さ、事業を良いものにしようという意識が感じられ、中には永続的に続けてほしいと評価される事業もあった。しかし一方では、長年同様に継続されている事業にマンネリ化が見られ、担当職員自身が事業の目的、狙うべき成果の理解がやや足りていないのではないかと思われるものもあった。そのような事業については、今一度、事業の目的・成果が総合戦略のどの項目に位置づけられるのか見直ししてほしい。

今回の評価にあたっては、にかほ市外部行政評価委員会で使用している事業評価シートとほぼ同様の評価シートを用い、あらかじめ担当課が事業評価を行った。外部行政評

価は本格実施から5回行われており、評価シートの作成については大分慣れてきていると思われるが、外部行政評価でも指摘されているように、事業の捉え方や事業の対象、評価項目にある事業の必要性について、やや的外れな記載や、通り一遍な記入が若干見受けられた。担当課においては、翌年度以降、評価結果の公表を意識した、的確な記載に努められるよう留意されたい。また、KPIについては、目標値をクリアしたかどうかだけではなく、翌年度以降の目標値の設定にフィードバックするなど、より効果的な運用に努めてほしい。

総合戦略事業の評価は、外部行政評価と異なる視点で評価されたものであるが、事業効果の測定、効果の検証など、PDCAサイクルを回し、事業をよりよいものにするという観点では根本的に同じものである。よって、今回、各議員から出された意見を十分検討し、事業の改善に役立てるのはもちろん、根本的な見直し、効果が見込めないものについては廃止までを含めて見直しを行い、にかほ市の地方創生に資する事業にしていくことを期待する。

平成27年度は地方創生元年と位置づけられ、今後の総合戦略事業の推進はますます期待される場所である。行政のみならず、外部の力も借りながら、にかほ市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に取り組み、少しでも人口減少に歯止めがかかるようまい進してほしい。

平成28年8月29日

にかほ市ふるさと創造有識者会議

議長	小笠原	正
副議長	山田	勝四郎
議員	佐藤	作内
〃	新田	修
〃	佐々木	鋼記
〃	高橋	新
〃	保坂	幸悦
〃	柴田	禮子
〃	永田	佳乃子
〃	菅原	光子

○会議の開催経過

会 議	日時・場所	内容
第1回会議	平成28年6月3日（金） 市役所金浦庁舎	委嘱状交付、議長の指名 有識者会議の設置について 会議の進め方について、事業評価について 評価作業（5事業） 企画課、商工政策課
第2回会議	平成28年6月27日（月） 市役所金浦庁舎	副議長の指名 評価作業（5事業） 観光課、白瀬南極探検隊記念館 フェライト子ども科学館
第3回会議	平成28年7月19日（火） 市役所金浦庁舎	評価作業（5事業） 農林水産課、財政課、健康推進課、 学校教育課

○評価対象とした事業

別表「平成27年度地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）事業」のとおり。

○評価の区分

評価は、次に示す4区分によるものとし、意見や提言等を付すものとした。

- 評価A K P I の達成に効果がある
- 評価B K P I の達成にやや効果がある
- 評価C K P I の達成にあまり効果がない
- 評価D K P I の達成に効果がない

○評価の手順

- 手順1 事業担当課による事業概要等の説明 5分程度
 - ↓
 - 手順2 質疑応答 10分程度
 - ↓
 - 手順3 各議員の評価発表
 - ↓
 - 手順4 評価のまとめ（総合評価）
- } 10分程度

平成27年度地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）事業

番号	総合戦略における分類			事業名	課・班名
	基本目標	大分類	中分類		
1	1 産業振興による仕事づくり	(3)観光を核とした交流人口の拡大	(ア)資源豊富な「にかほ」の魅力発信・誘客促進	二次交通運行助成事業	観光課 観光振興班
2	1 産業振興による仕事づくり	(3)観光を核とした交流人口の拡大	(ア)資源豊富な「にかほ」の魅力発信・誘客促進	ふるさと特産品PR事業	企画課 企画班
3	2 移住・定住対策	(1)首都圏等からの移住の促進	(ア)にかほの魅力発信 (ウ)移住後のフォロー体制の整備	移住・定住促進事業	
4	1 産業振興による仕事づくり	(3)観光を核とした交流人口の拡大	(イ)文化・芸術による地域の活性化	池田修三作品を活用した地域活性化事業	
5	1 産業振興による仕事づくり	(3)観光を核とした交流人口の拡大	(イ)文化・芸術による地域の活性化	白瀬スピリッツの継承推進事業	白瀬南極探検隊 記念館
6	1 産業振興による仕事づくり	(3)観光を核とした交流人口の拡大	(イ)文化・芸術による地域の活性化	夏休み特別企画展「とびだす絵本の科学展」	フェライト 子ども科学館
7				米村でんじろうサイエンスプロダクション実験教室等	
8				パンフレット「斎藤憲三略伝」印刷・配布	
9	基盤となる横断的な取り組み	ICTを活用した情報発信	/	にかほ市ホームページ更新事業	企画課 広報広聴班
10				にかほ市公共施設予約システム更新事業	財政課 財産管理班
11	1 産業振興による仕事づくり	(2)農林水産業の振興	(イ)園芸品目（野菜、果樹、花き）の生産拡大と6次産業化の推進	いちじく産地化支援事業	農林水産課 農業農村振興班
12	4 新たな地域社会の形成	(2)安全・安心なまちづくり	(ア)健康で豊かな暮らしの確保	ガン撲滅健康推進事業	健康推進課 健康増進班
13	1 産業振興による仕事づくり	(1)「稼ぐ力」を持った産業の創出	(エ)商業機能活性化の推進	商店街活性化事業補助金	商工政策課 商工振興班
14	4 新たな地域社会の形成	(1)地域社会の維持・活性化	/	地産地消食育事業	学校教育課 学校教育班
15	2 移住・定住対策	(1)首都圏等からの移住の促進	(ア)にかほの魅力発信	都市農村交流等促進事業	農林水産課 農業農村振興班

《平成28年6月27日（月）第2回有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
1	観光課	二次交通運行助成事業	補助事業

事業の概要	事業内容	本市は公共交通機関が乏しく、近隣空港からのアクセスも不便であるため、空港からのバスや市内観光地周遊のバス等を構築し、その運行助成を行う。
	事業の対象	本市への来訪者 事業主体：一般社団法人 にかほ市観光協会
	活動内容	市内の交通事業者に二次交通の運行助成を行うほか、二次交通利用者のうち市内宿泊者への助成を市旅館ホテル業組合を通じて行う。
	目的・成果	本市への交通の利便性を高め、来訪者の増加による交流人口の拡大を図る。

評価	B	観光地乗り合いタクシー、鳥海ブルーライナーについては利用者が増加しており一定の効果が見られるものの、エアポートバスについては、担当課でも認識しているように、やや周知不足である。市ホームページのみならず、宿泊施設等のホームページでも周知するなど工夫が必要。			
		A : 1人	B : 8人	C : 0人	D : 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・市当局と観光協会と協議し、一貫性のある環境づくりをしていただきたい。観光協会の人材、予算が不足しているのであれば、補正予算を組んでも手当てしていただきたい。 ・宣伝に力を入れていただきたい。ネット社会なので、いろいろな手段を使っていただきたい。 ・エアポートバスについては、TDKとの連携により経費が圧縮されている点はいいが、便数をもう少し増やして利便性を高められないか。周知については、市のホームページも一つだが、宿泊施設のホームページにも載せてもらうのもいい。 ・エアポートバスは、県内全市町村でやっているわけではなく、一つの強みになっているので、そういったところを効果として出してもらいたい。 ・宣伝不足である。まずは市民によく周知しなければならない。 ・鳥海ブルーライナーと乗り合いタクシーは、JRの利用促進が期待でき、将来的には羽越本線の高速化促進の追い風になるものと期待する。 ・エアポートバスの宣伝について、新聞折り込みチラシを見たが、最近では新聞を取っていない家庭もあるので、それ以外の方法も検討すべき。 				

《平成28年6月3日（金）第1回有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
2	企画課	ふるさと特産品PR事業	直営事業

事業の概要	事業内容	本市特産品のPR及び販路の拡大、リピーターの確保と寄附額の獲得を目的に、ふるさと納税寄附者に対して御礼として本市特産品を送付する。
	事業の対象	市内事業者（ふるさと納税返礼用特産品取扱い事業者）
	活動内容	ふるさと納税のポータルサイト（インターネットサイト）に、本市の情報や特産品、寄附の用途などを掲載し、全国にPRを行う。
	目的・成果	市外在住者を対象に、ふるさと納税制度を通じて本市特産品のPRを行い、リピーターとなってもらうことと、寄附額の獲得を目的とする。

評価	A	全国的にふるさと納税が盛んになり、返礼品目当ての寄附が相次いでいる。にかほ市においても、その流れに乗り遅れることなく返礼品の送付、専門インターネットサイトの活用、クレジットカード払いへの対応をし、寄附金額の大幅な増加が実現し、27年度において県内9番目の実績となり評価できるものである。			
		A： 8人	B： 0人	C： 0人	D： 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税寄附者への返礼品を送るようになってから、寄附額が大幅に伸びており評価できる。 ・返礼品を扱う業者の9割以上が市内業者なので、利益が地域に還元されており評価できる。 ・返礼品とする特産品の種類を増やすべき。百彩館で販売する旬の野菜詰め合わせセットのようなものも採用してはどうか。 ・返礼品を扱う市内業者の負担はないが、品物の包装代など、一部負担してもらってもいいと思う。 ・寄附金の使い道として観光PRに活用する方法も考えてもらいたい。 ・にかほ市のふるさと納税についてPRが不足している。 ・一つでもいいので、話題性のある返礼品を用意すれば、メディアで紹介されることによりPRできる。 ・寄附金額は目標値を上回り5千万円に達しており、28年度は7千万円以上となる勢いがあるものの、29年度以降、伸び悩むことが想定され、どのようなやり方をして伸ばしていくのか考慮が必要と思われる。 				

《平成28年6月3日（金）第1回有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
3	企画課	移住・定住促進事業	直営事業

事業の概要	事業内容	市外に3年以上住所を有する方が、本市に住宅を取得して転入した場合、定住奨励金等を交付する。また、首都圏等で開催される移住フェア等で使用するポスター・パンフレットの作成、にかほ市を移住先の候補として振り向かせるために、移住PR動画を作成した。
	事業の対象	移住者及び移住希望者
	活動内容	ホームページに定住支援情報を掲載し、支援制度や空き家情報を発信する。首都圏等で行われる移住希望者を対象とした移住フェアやセミナーで、定住希望者にかほ市をPRするとともに、空き家物件や定住奨励金制度などの支援策を紹介し、相談を受ける。
	目的・成果	本市の人口減少に歯止めをかけるために、移住者の増加を目指す。移住者数（定住奨励金交付者数）10人／年を目標とする。

評価	B	<p>移住定住対策に取り組み始めまだ日が浅く、にかほ市の移住支援策の周知が足りない。今後、施策のPRを図るとともに、にかほ市の自然環境、住環境、雇用環境を広く知らしめる必要がある。</p> <p>また、若い世代の移住には仕事の支援が必須であり、今後の取り組みが期待される。</p>			
		A : 2人	B : 6人	C : 0人	D : 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・にかほ市に通勤している人で、にかほ市内にアパートが無いなどの理由で市外から通勤している人もいると思われ、空き家等を改修して住居を確保するのも一案と思われる。 ・移住フェアなどの効果が見込めるので続けるべきである。 ・若い世代に移住してもらうためには、仕事の紹介が必須であり、専門家やコンサルタント業者と連携して起業を推進するなど、今後の取り組みを考える必要がある。 ・都会から人を呼ぶにも仕事がないので、定年退職した世代を呼び込むべき。雪が少ないなど自然環境の良さをアピールするべき。 ・にかほ市は、住環境は申し分ないが、雇用の場が少ないので企業努力により雇用の場を増やしてもらう必要がある。 ・にかほ市の移住支援についてPRが不足しているので、今後PRを強化すべき。 				

《平成28年6月3日（金）第1回有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
4	企画課	池田修三作品を活用した地域活性化事業	直営事業

事業の概要	事業内容	本市出身の木版画家池田修三の作品を活用したパネル、のぼり、ステッカー等を作成し、まちのにぎわいづくりをする。
	事業の対象	市外からの観光客と受け入れ態勢としての市内事業者等
	活動内容	公共施設、駅、銀行、店舗等にパネルやのぼりを設置し、池田修三のふるさとをPRする。また、出産した家庭に対して、自動車に貼るBABY IN CARステッカーを配布するなど、若い世代への作品の周知を高める。
	目的・成果	本市出身の木版画家池田修三について、作品や人物について理解を深めるとともに、作品のデザインを商品に活用し、観光客が街中で楽しめる環境を整備する。

評価	B	池田修三版画を活用した事業は近年まれに見る大成功を収めている。市外からの観光交流に大きく貢献し、市内の観光経済に大きなインパクトをもたらしていることから、これからも引き続き継続した事業展開が望まれる。ただし、単なるイベントの実施など、一過性の取り組みとならないよう努力する必要がある。			
		A : 4人	B : 4人	C : 0人	D : 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の継続が困難であり、一過性のイベントで終わる可能性がある。 ・象潟地域だけでなく、仁賀保、金浦地域での実施も検討すべき、例えば商店に池田修三作品があるスポットを紹介する小冊子を置くなどでもよいのではないか。 ・池田修三作品の活用は地域に埋もれていたいものを掘り起こしてくれた事業である。一過性の問題もあるが、そうならないように努力すべき。 ・近年では大ヒットの事業である。地域経済が疲弊している中、本事業により交流事業が拡大し経済効果が出ているものである。 ・池田修三は本市にしかない観光資源であり、道の駅やにかほっとなど人の集まる拠点にパネルなどを置くなど、外へ向けたPRが必要。 ・池田修三版画のオリジナルの販売もするべき。 				

《平成28年6月27日（月）第2回有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
5	白瀬南極探検隊記念館	白瀬スピリッツの継承推進事業	補助事業

事業の概要	事業内容	先人を活用した地域コミュニティイベントへの補助。 ①地元ご当地ヒーローによる集客イベント ②市民グループによる集客イベント ③白瀬中尉物語のミュージカル音楽による白瀬のPR ④南極に関わる自衛隊音楽隊による「白瀬」のPR
	事業の対象	①にかほ市民 ②にかほ市周辺の住民、県内外観光者並びに白瀬を顕彰する方々 事業主体：白瀬・南極フェア実行委員会
	活動内容	事業を実施する実行委員会へ補助金を交付しイベント（フェア）を行う
	目的・成果	白瀬と南極探検隊の偉業と理念を次の世代に受け継ぎ、継承するために開催している。 先人を活用した地域コミュニティイベントにより、継続的な交流と地域活性化を促進している。

評価	B	大洗高校マーチングバンド部の招致は大変好評であり、今後もこのような目玉イベントを取り入れるなど、イベント内容のマンネリ化を防ぐ必要がある。予算は限られているが、スポンサーや寄附金により新たな財源を確保すること、白瀬スピリッツの継承というテーマをイベント内容に反映することも求められる。			
		A： 4人	B： 5人	C： 0人	D： 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・集客力のあるイベントだが、ほとんどが地元の方。大洗高校マーチングバンド部は大好評だったので、予算の関係もあるが今後もそのような大きなイベントをすることで、外からの誘客を図ってほしい。 ・イベント内容の見直しが必要。 ・担当課でも認識しているようにマンネリ化が否めない。新たな誘客の掘り起しが必要。 ・30回続いているイベントであり、今後も続けていただきたい。少ない予算でも集客することは可能だと思う。 ・担当課の受け答えに一貫性があり、悪い点を改善していく前向きな姿勢を評価し、今後に期待したい。 				

有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none">・事業名にある「白瀬スピリッツ」を全面に出して欲しい。少ない予算だとどうしても市民向けのイベントで終わってしまうので、今後もこの予算額を維持していただきたい。・今回はイベント内容も盛大にすることができ、十分な効果があった。市制10周年など節目だったため大きい予算であったが、今後、予算額が元に戻った場合、どのようにするかが問題。冠スポンサーを探したり、各企業から少しずつ寄附をいただくなど財源の確保が必要。
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

《平成28年6月27日（月）第2回有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
6	フェアイト子ども科学館	夏休み特別企画展「とびだす絵本の科学展」	直営事業

事業の概要	事業内容	科学に親しみ楽しみながら学べる特別展を例年夏休み期間に合わせて実施しており、27年度においては「とびだす絵本の科学展」と題し7月22日から8月30日までの39日間企画展を開催した。
	事業の対象	市内児童生徒並びに市外からの科学館来館者を対象とした。
	活動内容	展示内容は業者委託により企画し、PRについては、市内及び由利本荘市の全児童並びに市内全戸にチラシを配布、科学館ホームページ、ブログで告知を行った。
	目的・成果	子どもの理科・科学への関心を高めるとともに、科学館入館者の増加を図り、事業を通して地域の先人・斎藤憲三の功績や精神を広く未来に受け継ぐことを目的とする。

評価	B	飛び出す絵本は高価であり、一度に多くを見られる機会という意味では効果があったが、子ども向けには見るだけよりも実際に作ったりする体験型のほうがよい。天候の関係もあるが、前回より企画展開催中の来館者数が減少しているため、次回の企画展には期待したい。			
		A : 3人	B : 6人	C : 0人	D : 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども向けとしては、触って見せるだけよりも、作らせるほうが良いと思う。 ・飛び出す絵本は値段が高く、本屋でも多くの種類を見ることはない。そのようなものを実際に見られるのは、子どもたちは楽しいと思う。 ・飛び出す絵本はこの2～3年とても話題になっていて、テレビでも取り上げられ、見に来た方は興味を持って来たと思う。これだけの数を一度に見られるという機会はなかなか無いので、こういったことは積極的にやっていただきたい。 ・子どもたちが直接触れて、作ることに繋がっていくと思う。 ・TDK発祥の地であり、技術のある地域です。そういった意味で、技術を楽しむイベントを実施していただきたい。 ・マスコミ対策（PR）の拡充を図る必要がある。 				

《平成28年6月27日（月）第2回有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
7	フェアイト子ども科学館	米村でんじろうサイエンスプロダクション 実験教室等	直営事業

事業の概要	事業内容	全国的に著名なサイエンスプロデューサー米村でんじろう氏が代表であるサイエンスプロダクションにより実験教室を年8回（4日間）開催し、科学に関する学習機会を提供するもの。
	事業の対象	市内外の小学生及びその保護者
	活動内容	実験教室の企画運営をサイエンスプロダクションへ委託している。PRについては、市内及び由利本荘市の全児童並びに市内全戸にチラシを配布、科学館ホームページ、ブログで告知を行った。
	目的・成果	子どもの理科・科学への関心を高めるとともに、科学館入館者の増加を図り、事業を通して地域の先人・斎藤憲三の功績や精神を広く未来に受け継ぐことを目的とする。

評価	A	近年、子どもの理科離れが懸念され、本事業は実際に体験することができ、非常にいい内容で効果があった。また、米村でんじろう氏は全国的に著名であり、事業の魅力向上につながっている。夏休み期間の恒例事業であり、一定の集客力はあるが、入館者の増加に効果があるとは言い切れず、常設展示改修の検討も必要である。			
		A： 7人	B： 2人	C： 0人	D： 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・米村でんじろう氏は有名な方なので、そういった方を間近で見られるのは子ども達に貴重な経験である。 ・子ども達の理科離れ、科学離れと言われている中で、このように実際に体験できる機会は大変貴重であり、米村氏という著名な方から実際に目の前で見せてもらえる機会はなかなかないのでこれからも続けていただきたい。 ・子ども達にも人気があり、参加者も多いのでこれからも続けていただきたい。 ・事業自体はすばらしいものだが、もっと集客できると思う。 ・事業の目的である入館者の増加につながるか疑問がある。 ・まさに、ものづくりの基本が学べる貴重な機会だと思う。 ・実際に体験できる内容でよい。 ・高いニーズのある取り組みである。 ・理系離れが心配される中、よい事業だった。 				

《平成28年6月27日（月）第2回有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
8	フェアイト子ども科学館	パンフレット「斎藤憲三略伝」作成事業	直営事業

事業の概要	事業内容	地域の先人・斎藤憲三の生涯や功績を紹介するため、日本語と英語表記によるパンフレットを作成。
	事業の対象	市民及び来館者
	活動内容	既存のパンフレットの一部分を改訂し2,000部を作成（印刷製本）。
	目的・成果	市民や科学館を来館される方に対し、斎藤憲三氏の功績や精神を広く紹介し、未来に受け継ぐことを目的とする。

評価	A	斎藤憲三氏の略歴が分かりやすく、内容も充実している。事業としては、必要なパンフレットの印刷業務ということで、ごく普通であるが、事業の目的・成果そのものであり効果があった。子ども向けのものも必要と思われる。			
		A： 5人	B： 4人	C： 0人	D： 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 斎藤憲三氏がTDK創始者であることが分かり、英語表記もあるのでよい。 ・ 斎藤憲三氏の功績がまとめられており、次の世代に継承していければと思う。 ・ 保護者向けのパンフレットである。子ども向けの見やすいものも検討していただきたい。 ・ 子ども向けの内容も付加して、子どもから大人までを対象とするパンフレットの方がよい。 ・ 斎藤憲三氏のことがよく分かり、あまり知られていないことまで網羅されているのでよい。 				

《平成28年6月3日（金）第1回有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
9	企画課	にかほ市ホームページ更新事業	直営事業

事業の概要	事業内容	市の行政情報などを発信するため、ホームページを開設しているが、きめ細やかな情報発信に加え、時代に合った方法により情報発信することが求められており、利便性をより高めるためのリニューアルを行った。
	事業の対象	市民、市内外に対しての事業。
	活動内容	従来のホームページをリニューアルする。
	目的・成果	各分野において掲げる施策を進めるうえで、情報発信は必要不可欠であり、ICTを活用した情報発信は、必要な情報を、必要なときに、どこでも手軽に取得できる環境づくりを目的とする。

評価	A	ホームページを活用した情報発信は時代にマッチした非常に有効な手段といえる。近年の通信手段として、パソコンからスマートフォン、タブレット端末にシフトしている状況であり、それぞれに対応したこと、動画の配信に対応したことは非常に評価できる。今後も時代の変化によりニーズが変わるため、継続した改修が必要である。			
		A : 8人	B : 0人	C : 0人	D : 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・今の時代、ホームページによる情報発信は大変重要なことであり、これからも予算をかけて整備して欲しい。 ・ホームページはマスコミの最先端であり、どんどんお金をかけて欲しい、全体の予算から見ればこの程度の予算は大きな金額とは思えない。 ・ホームページでの情報提供は非常に大事なことであり、主流となっているスマートフォンやタブレット端末などのへの対応、動画の配信に対応したことにより利便性が向上している。 ・にかほ市について調べる場合、まず市のホームページを検索するもの。今後も改修は必要であるので、軽微な改修も含め継続してもらいたい。 ・インターネットの活用は今の時代にマッチする有効な手段である。 ・フェイスブックの利用者は40代～50代が主になっているようであり、その年代に向けた内容を増やしていくことも考えて欲しい。女性においては、フェイスブック、ツイッターよりもインスタグラムの利用が多いので、その活用も検討すべき。 				

《平成28年7月19日（火）第3回有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
10	財政課	にかほ市公共施設予約システム更新事業	直営事業

事業の概要	事業内容	市の公共施設の利用予約をインターネットを利用してパソコンやスマートフォンから申し込みできるシステムをリニューアルし、一体的に各種イベント情報を発信していく。
	事業の対象	公共施設を予約する市民
	活動内容	公共施設予約システムを導入し、パソコンやスマートフォンを利用し、空き状況確認、予約申込み、キャンセル等を行うことができるようにする。また、施設のイベント情報を登録し紹介できるようにする。
	目的・成果	いつでも、どこからでも公共施設の空き状況確認、予約申込み、キャンセル等を行えることによって、効率的な行政サービスを提供していく。

評価	A	旧システムでの予約は仮予約にすぎなかったが、新システムでは本予約となり、リアルタイムで空き状況が確認できるなど、利便性が向上している。また、各施設でのイベント情報も掲載する機能が増えたこともよい。市民のみならず市外の方の利用も可能であるが、ID発行方式によりセキュリティが確保されており、適正な運用が確保されている。			
		A : 8人	B : 0人	C : 0人	D : 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・旧システムよりはるかに便利になった。 ・施設の空き状況が分かるということに加えて、各施設のイベント情報も公開されていることは便利。 ・利便性が格段に向上している。 				

《平成28年7月19日（火）第3回有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
11	農林水産課	いちじく産地化支援事業	補助事業

事業の概要	事業内容	「北限のいちじく産地」と言われた大竹集落では、平成初期をピークに生産量は低下し、現在は横ばい状態である。 いちじくを生産量を増加させるため、市内全域での産地化を目指し、生産技術指導や販売促進活動を行う。
	事業の対象	市内農業者、いちじく振興会
	活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 苗木等の生産資材購入費及び排水対策等の基盤整備費支援 農産物商談会への参加 先進産地や販売促進研修の開催
	目的・成果	<ul style="list-style-type: none"> にかほ産いちじくの認知度の向上 稲作との複合経営による農家所得の向上

評価	B	事業としてはまだ始めたばかりであり、数年継続した後の検証、見直しが必要。いちじくが生産が向上し、市民にも特産品としての認識が浸透してきているが、加工方法、販売方法の開拓が未熟である。今後、6次産業化に向けた取り組みを推進し、より付加価値の高い商品開発、販路開拓が必要である。			
		A : 3人	B : 5人	C : 0人	D : 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> まだ始めたばかりの事業であり、現段階で事業効果は判断しきれない。利益が出ないと担い手不足に陥る危険性がある。 いちじくを東京、関東方面に売り込むのは難しいのでは。 事業開始してまだ1～2年程度であり、もう1～2年実施した段階で効果検証し見直しをしてほしい。 いちじくは加工することにより売れる可能性を秘めている。協議会の体制作り、市、県、農協、生産者、加工業者のそれぞれの役割、目的を明確にして取り組んでいただきたい。 いちじくは、にかほ市の特産品であることは浸透している。これからは付加価値をつけていくことに努力してほしい。 いちじくは食物繊維、ポリフェノールが豊富で、そのような健康効果を売りにしてほしい。 				

有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none">・これまでの宣伝によりいちじくが特産品であることは浸透している。しかし、商品の販売という観点では工夫が足りない。道の駅象潟には年間70万人もの観光客が来ているので、その観光客に売り込んでいくべき。・担当課の説明にあったように、生産量が増えると単価が下がり、一定の量しか生産できない生産者にとっては収入が下がるということになる。付加価値をつけて、甘露煮以外の商品開発、販路開拓に努力していただきたい。・行政が販路を開拓することは不可能。販路を開拓するのは民間の役割であり、事業内容を見直していただきたい。
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

《平成28年7月19日（火）第3回有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
12	健康推進課	ガン撲滅健康推進事業	直営事業

事業の概要	事業内容	中学2年生を対象に一次検査は学校健診と併せて尿中抗体検査を実施。陽性判定者は、指定医療機関において二次検査として尿素呼気検査を実施し、二次検査で陽性判定者となった場合は、希望者に除菌治療を実施。
	事業の対象	市内在住の中学2年生（初年度のH27年度は中学3年生も対象）
	活動内容	一次検査は、学校健診に併せて尿中抗体検査を実施。二次検査以降は受診券を配布して尿素呼気検査、除菌治療を実施。
	目的・成果	将来的な胃がん予防、さらには親子感染の連鎖防止につなげる。また、保護者を含めた若い世代へのピロリ菌やがん検診に対する意識啓発に取り組む。

評価	A	中学生を対象とした事業であるが、その家族も予防の意識が高まる。ピロリ菌保有者は5歳までに感染していると言われており、体の成長度合い、理解能力、時間的余裕を考え、中学2年の時期に行うことは適正と考えられる。本市の胃がん死亡率の低下に大きく貢献する事業であり、万人から評価される事業であると考えられる。			
		A : 8人	B : 0人	C : 0人	D : 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・にかほ市の胃がん死亡率の高さに驚いた。子どものうちに意識を高めていくなど、あらゆる面で効果的だと思う。 ・中学生のうちから意識付けていくということはいいことだと思う。 ・極めてよい事業であり、できれば永続的に続けていただきたい。誰が見てもよい事業であると思う。 				

《平成28年6月3日（金）第1回有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
13	商工政策課	商店街活性化事業補助金	補助事業

事業の概要	事業内容	商店間の連携を図り商店街組織を新たに形成するとともに、活力に満ちた魅力ある商店街を目指す意欲ある取り組みへの支援。
	事業の対象	①平沢ぶらり商店街振興会 ②金浦商店街振興会 ③象潟町商業振興会
	活動内容	商店街ごとに、スタンプラリー、誘客イベント、市行事に合わせたセール等の実施。
	目的・成果	買い物環境の多様化等による地元商業の衰退を克服し、地域の賑わい創出・経済の活性化のため、持続的活動を行なおうとする自主活動組織の立ち上げを目的とした。 各地域ごとに、個店間の連携を図った新たな商店街組織が形成され、各地域とも商店街の認知度向上等となる事業を実施した。また、今後の自主的・持続的な活動への足掛かりとなる人材の育成につながったことは成果と考える。

評価	A	各地域の商店街の活性化は市の活性化につながるものである。地域に密着した実施方法は評価できる。地区によっては、広く商店等に周知できず、不公平感を与えている地区もあるため、より多くの商店等が参加し、広く連携した事業展開を図ってほしい。			
		A : 5人	B : 3人	C : 0人	D : 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街が衰退しており、活性化のためにいろいろな意見を取り入れながら継続して欲しい。 ・事業の進め方において公平性に欠ける部分があった。事業自体を知らない個店もあり苦情も聞こえることから、公平性を保った運営が必要。 ・地元商店街の衰退はまち全体の衰退につながる。今回の事業において、100円商店街は非常に多くの誘客があり、新聞でも大きく取り上げられたもの。これからも継続するべき。 ・地域に密着した細かな実施ができたことは評価したい。商工会と連携することでより大きな成果が得られると思われる。 ・各地区の振興会により多くの個店が参加し、一過性のイベントに終わらない仕組みづくりが必要。 ・輪を広げ、連携の拡大が必要。 				

《平成28年7月19日（火）第3回有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
14	学校教育課	地産地消食育事業	直営事業

事業の概要	事業内容	①学校給食における地場産物や特産物の掘り起こし ②地域の行事に合わせた献立作成（市制10周年に合わせた「まるごとにかほ給食」等） ③児童生徒や保護者を対象に地場産物を活用したレシピの募集
	事業の対象	市内児童生徒及び保護者を対象とした。
	活動内容	市内の学校栄養職員と連携をして献立を協議した。地元業者にも協力を求め、食材の量と質を確保した。必要に応じて試作を依頼し学校給食に提供できるよう分量などを工夫してもらった。保護者の意識調査については、学校へ協力依頼をして、アンケート調査を実施した。
	目的・成果	これまで積極的に取り入れていなかった地域の地場産物や特産物を、地域の行事及び学校行事等に合わせて学校給食に提供することで、ふるさとの味に親しませるとともに、児童生徒及び保護者の地場産物への関心を高め、購買意欲向上に資することを目的とする。

評価	A	限られた給食費で地場産物を活用したメニューの提供は費用面で難しいため、本事業により児童・生徒にふるさとの味を味わわせることは食育教育として重要なことであり評価できる。今年度の予算額が減額となっているが、食材提供業者と協力しながら続けていきたい。			
		A : 8人	B : 0人	C : 0人	D : 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の子も、ふるさとメニューの日は「給食でこんなメニューが出たよ」、「由利牛美味しかったよ」と、こちらから聞かなくても話していたので、効果があったと思う。 ・子ども達にふるさとの味を覚えさせるということは大切だと思う。 				

《平成28年7月19日（火）第3回有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
15	農林水産課	都市農村交流等促進事業	直営事業

事業の概要	事業内容	都市との交流活動を通じて、都市への農林水産物の販路拡大や農山漁村資源の再認識と活性化、定住促進につなげるための活動を行う。
	事業の対象	事業主体：にかほ市交流協議会
	活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 「にかほ市交流協議会」が行う活動への補助金交付。 農林水産課が当該協議会の事務局となっている。
	目的・成果	にかほ産農林水産物の販売・交流等により、農山漁村の魅力を伝え、農山漁村の活性化を図る。

評価	C	平成5年から継続されている事業であるが、事業内容にマンネリ化が見られ、費用対効果、協力業者の経費負担など改善すべき点が多く見られる。にかほ市をPRするうえでイベントの開催は重要であるが、開催方法、出品物、他イベントとの合同開催など、事業内容を見直すべきである。			
		A : 0人	B : 2人	C : 6人	D : 0人
有識者会議での意見等	<ul style="list-style-type: none"> 費用対効果が小さく、年1回のイベントで移住定住対策につながるのか疑問。事業内容がマンネリ化しているので、きちんとしたビジョンを立てた上でアクションを起こしていただきたい。 にかほ市を宣伝できていることは評価できるので続けていただきたい。ただし、内容を見直したうえで今後取り組んでいただきたい。 担当課の自己評価でも、事業の必要性が低く、事業内容を見直す必要があり、事業を休止・廃止した場合の影響も小さいとされている。続けることはいいことだと思うので、他のイベントと併せて開催するなど、根本的に見直したうえで続けてほしい。 にかほ市のPRとしてイベントは大事なものだと思うので、やるのであれば内容を見直しして欲しい。 長い歴史の中で浅草馬道地区との交流を図っている。なくすのは簡単だが、継続して内容を考えていくべき。 出店業者が経費負けしていることから、業者の方々が喜んで参加してくれているのか疑問があるので、その辺をよく調整しながら続けていただきたい。 				